

総務常任委員会管外調査報告 (東北地方～南三陸町・気仙沼市・東松島市・仙台市)

兵庫県議会議員 中田英一

| 日程 | 場所 | 内容 |
|--------|----------------|---------------------|
| 10月29日 | 南三陸町町議会 | 被災地支援等の状況調査及び意見交換 |
| | 南三陸町被災地 | 被災地復旧・復興状況の調査 |
| 10月30日 | 地域支援気仙沼センター | 地域に根ざした復興支援現場の調査 |
| | 災害科学国際研究所・市立病院 | 地域に根ざした復興支援視察及び意見交換 |
| | 東松島市役所 | 被災地復興への取組み等視察 |
| 10月31日 | 宮城県議会 | NPOの活動状況等調査及び意見交換 |
| | 東北メディカルメガバンク機構 | 先端科学技術を活用した地域支援活動視察 |

現地調査内容

南三陸町被災地

現在も南三陸町には全国 47 団体から 109 名の職員が派遣されており、うち兵庫県からは 12 名、県下 11 市町から 18 名の職員が働いておられた。

数名と町議会で意見交換したが、津波で庁舎にあった行政関係の紙資料が全て喪失した状況で人手が何より大切だと感じた。

震災以降 4 度目となる南三陸町だが、ここ半年で目に見える形での復興が進んでいるように映った。被災自治体には復興予算が振られているが、その金額が多くなればなるほどそれを適正にさばく人手も必要になるのは当然で、通常一般会計予算の何倍もの復興予算を使う被災地にはまだまだ継続した支援（人手の面で特に）が必要だと再認識した。

以前の市街地には巨大な土の台が造成されており、震災直後のボランティアでお世話になったボランティアセンターの裏山もその土取りのために切り崩されていた。病院や商店街などもそのできた高台に移転する計画だという。

その中で、決死の覚悟で住民避難を呼びかける女性職員の勇敢さが国民の心を打った防災庁舎の「取り壊しか保存か」の選択で町は揺れていた。

辛い記憶をいたずらに喚起させないための取り壊しも、この記憶を遠い未来につないでいくための保存もどちらも痛いくらい理解できるけれど、一番に優先すべきは今をそこで生きる住民の意見だろうと思う。





気仙沼（番外編）

翌日の調査日程が気仙沼からスタートする関係で宿泊は気仙沼駅前。夕食後と翌早朝に個人的に市内を散策し復興状況を見て回った。

気仙沼市も市街地を津波被害にあっており、飲食店などが仮設で集合した商店街を形成していた。平日ということもあってか賑わいは少なかったが、若い店主が奮闘して地域の特産品（モウカザメの心臓刺身「もうかの星」）をPRするなど地域の活力を感じられた。

翌朝は気仙沼と南三陸町をつなぐ公共交通BRT（バス高速輸送システム）に乗車した。BRTは鉄道のようなバス専用道路（レーン）を走行するバスで、信号や渋滞に関係なく電車のように輸送に定時性がある。しかし、このBRTは鉄道の代わりとして（鉄道復旧より低コスト）線路脇に専用レーンを整備したもので、一部区間は通常バスと同様に一般車道を走行する。朝の時間帯だったためか、乗客は90%以上学生でほぼ満員。

車窓から見える景色は海沿いということもあって、震災の爪あとが大きく残っている。もちろん復興にむけて力強く重機が動く場所もあるが、その光景が毎日目に入る学生たちの心境はどうだろうか。東北の、日本の復興と防災に大きく貢献する人物にと願うばかり。





地域支援気仙沼センター「けんこうスクエア」＋ 東北メディカルメガバンク機構

今回の調査の目玉ともいえる“メディカル・メガバンク”構想は、簡単に言えば

「健康・医療に関する住民の情報（ビッグデータ）を集めて分析、これをもとにより効率の良い医療、個人に適した医療を実現し、QOL（クオリティーオブライフ＝人生の質）の向上と増大が懸念される医療費の抑制につなげる」というもの。

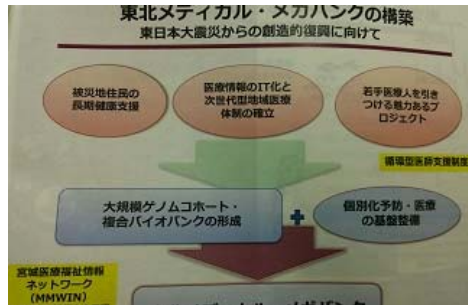
「遺伝」が引き起こす疾患、「生活習慣」が引き起こす疾患については概ね解明してきた現代医学も、遺伝因子と生活習慣が組み合わされて起こる疾患についてはこれからの段階である。特に遺伝子分野においては世界に大きく出遅れている日本が巻き返す機会となるかもしれない。

ただし、「遺伝子の分析」や「個人情報収集」という点で最大限の慎重さが求められるのは当然。また、復興予算で行われることに関して「被災者の弱みにつけこんで危険なことをさせようとするものでないこと」は意見交換でご説明いただいた。

被災者の多くは、国を挙げての支援に対して自分たちが元気であることを伝えたいという気持ちが強く、また、東北地方は医療資源の偏在（医療過疎）が深刻化していることもあり、先進技術を取り入れながら（予防医療を含め）効率的に医療を進めていくことを望んでいるとのこと。現場の状況や実際に相当数のデータ（住民同意）が集まっていることから充分納得のできるものであった。

世界で遺伝子研究は進められており、日本で利用できるその技術のほとんどは欧米人の遺伝情報を元に作られた理論で、日本人（東洋人）に適合したものとは言えない。日本でも遺伝情報を用いた医療を容認する以上、日本人の遺伝情報で研究を進める必要があるのではないだろうか。

※なお、東北メディカル・メガバンクは震災復興事業のため、被災地以外では利用できない。



コホート調査の進捗状況（宮城県）

【地域住民コホート調査】：平成25年度目標 10,367名 達成

【地域医療センター（サイト）】：平成25年10月31日現在「気仙沼センター」での健診調査を完了。これまで6,887人が登録。6月24日実施分まで、追加健診実施人数21,006名と、さらに健診・追加健診1,000名ほどの予約あり。

| 実施期間 | 実施対象数 | 調査対象数 | 調査率 | 調査率 | 調査率 | 達成率 |
|-----------------|---------|---------|-------|----------------------------|-------|----------------|
| 5/20～ | 40,573名 | 26,119名 | 64% | 25,679名 11月15日現在中 断中 | 63% | 23,538名 63% |
| 【地域医療センター（サイト）】 | | | | | | 30,425名 達成 |
| 【実施期間】 | 【実施対象数】 | 【調査対象数】 | 【調査率】 | 【調査率】 | 【調査率】 | 【達成率】 |
| 【実施期間】 | 【実施対象数】 | 【調査対象数】 | 【調査率】 | 【調査率】 | 【調査率】 | 【達成率】 |

【三世代コホート調査】
平成25年7月19日に青田町より調査を開始してより、平成25年9月30日現在の実施状況は以下の通り

| 実施期間 | 実施対象数 | 調査対象数 | 調査率 | 調査率 | 調査率 | 達成率 |
|--------|---------|---------|-------|-------|-------|-------|
| 【実施期間】 | 【実施対象数】 | 【調査対象数】 | 【調査率】 | 【調査率】 | 【調査率】 | 【達成率】 |





東松島市・災害公営住宅

「震災復興に向けた集落の高台移転整備」と「震災がれきの処理」について特に調査と意見交換をさせて頂いた。

高台移転事業は 7 箇所中 5 箇所が完了しており、一般的に進度が遅いと報道される災害公営住宅についても東松島市では 1010 戸中 254 戸（年内にもう 200 戸）が完成している。南三陸町でも耳にしたように、莫大な復興予算をさばく人手の必要性をこちらでもお聞きした。そのような状況下でも、市長の陣頭指揮のもとスピーディーな復興を行っておられる。

個人的に関心を寄せていた「震災がれき問題」についても、“東松島方式”と言われるほど、効率的でスピーディーな処理を達成されている。

発災当初は「100 年分の廃棄物が出たから全国へ運んで処理する」という流れもあったが、そんなことをせずとも結局は東松島市を含め東北地方のほとんどで目標の 3 年以内に処理を完了している。

東松島市では、がれきを初期の収集段階で 14 品目にまで分別し、リサイクル可能なもの（金属など）は徹底的に資源として収益を上げ、最終的には手作業で 19 品目まで分別し処理効率を高めた結果、期限前に終了しただけでなく 600 億円の予算を 400 億円しか使わず、200 億円は国に返還したのだという。そして、その 400 億円も県外に出すのではなく地元雇用を生んだ。

私のがれきのばらまきに反対し効率性を高めること、被災地にカネを落とすことを兵庫県で訴えていたのと同じようなことが、被災地でちゃんと実行され結果を出されていたことが嬉しかった。収集時からの分別（後から分別すると 1.5 倍の手間）は“東松島方式”として伝えていきたい。

↓下記の画像は「災害公営住宅」と「津波被害地域で収穫が行われる様（昨年までは荒地）」



以上